

令和3年度第1回香芝市都市経営市民会議 議事要旨

- ◆開催日時 令和3年8月17日(火) 午前9時30分～午前11時40分
- ◆開催場所 香芝市役所本庁舎3階第1会議室
- ◆出席者 中川会長、平越副会長、植田委員、粕井委員、川田委員、縄田委員、萩原委員、松田委員
(計8名)
- ◆事務局 企画部:福森部長、井原次長
企画政策課:足立課長、吉谷主幹、佐々木主任、浅田主任、高橋主事
地域振興局:津崎局長(議題1)
- ◆議題 (1) 令和2年度「地方創生推進交付金」事業(万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備事業) 効果検証
(2) 「第5次香芝市総合計画」及び「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗確認

各議題について

(1) 令和2年度「地方創生推進交付金」事業(万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備事業) 効果検証

平成28年度から令和2年度の5箇年に向け、地方創生推進交付金を活用して実施した本事業について、実施内容を報告し、外部有識者による効果検証として、総合戦略のKPI達成に有効であったかどうかを評価した。

<意見及び質疑>

- : 明神山に登る香芝市側のルート整備について、議会でも審議され、現地調査等を行っていたが、その後整備が進んでいないのはなぜか。

→(事務局) ルートに係る土地が私有地であり、整備もなかなか進みにくいということもあったため、当初から、ルートの設定・確認を行った上で、まずは観光案内看板を設置することを想定していたが、途中で補助対象に当たらないとされたため本補助金では実施できていないのが現状。しかしながら、今後看板設置を行い、歩いていただきやすいように周知していきたい。

- : この事業と併せて歴史的文化財の研究・調査も行うことになっていたように思う。ルート整備ができるのかの問題もあるが、歴史的文化財は、まずは市内外へ広く認知してもらうことが大切である。これまでの調査を教えてください。

→(事務局) 歴史的文化財の調査は進めてはいるが、その情報発信ができていない点は反省すべきと考えている。昨年度に刷新した観光マップをもって、引き続きPRに努めたい。

- ：令和2年度に制作した YouTube の再生回数が約 2 万 7 千回とあるが、この数字が多いのか少ないのか、どう捉えたらよいのか。

→（事務局）なかなか他と比較するのが難しいところではある。当日の映像配信後もアーカイブによって、ずっと視聴いただける状態にしているので、PR 効果はあると考えている。

<評価結果>

総合戦略のKPI達成に有効であった（委員全員による多数決で決定）

- ：（評価：有効であった）まずは香芝市を知ってもらうことが大事だと思うので、よい取り組みであったと感じる。訪れた方がリピーターになっていただけるかがポイントであるので、訪れていただいた方へのアンケートを検証し、さらに効果的な取り組みを行っていただきたい。

- ：（評価：有効であった）観光に関するこういった取り組みはなかなか効果が上がりにくい中、健闘していると評価する。

- ：（評価：有効とは言えない）他市でも観光 PR にはいろいろ取り組まれているが、香芝市は観光 PR が進んでいないと感じる。KPI は目標として達成すべきものとしてあるが、明神山のルート整備の他、枝葉の取組として予定されていた太子道の整備が進んでいないなど、事業を総合的に捉えた中で効果検証をした結果、「有効とは言えない」と評価する。

- ：（評価：有効であった）YouTube について、現に2万7千人の方が見られていることや、整備エリア内のウォーキング人数は平成28年度の約 3 千人から平成29年度には約5万2千人に急増していることなどは評価できる。

- ：（評価：有効であった）整備エリア内のウォーキング人数の推移から有効であったと評価する。「万葉ロマンの地を巡る観光ルート整備」という名称の事業であるのに、ガイドマップには「大奈ウォーク」という名称が使われているのはどういった経緯があるのか。

→（事務局）事業の詳細を検討していく中で、大阪と奈良の県境をまたいでの取り組みとして、大阪の「大」と奈良の「奈」をミックスして「大奈 mix（ダイナミクス）」というネーミングが生まれ、その取り組みにより作成したガイドマップを「大奈ウォーク」と称している。

- ：香芝市が行う事業としてイメージアップを図る場合、「大奈ウォーク」という名称はあまり適していないように思う。今後、改めて愛称を募集する等の取り組みをしてもよいと思う。

- ：（評価：有効であった）コロナ禍の影響でKPIの実績が大きく落ち込んだのは想定外の事態で

あったと思う。今後、リピーターを育てるために、特産品等の物販の取り組みも行っていくとよいのではないかと。

- ：(評価:有効であった) KPIの実績が大きく落ち込んだのは、コロナ禍の影響で想定外であったと思う。今後も引き続き取り組みを進めていただきたい。
- ：(評価:有効であった)
- ：委員の大多数が「有効であった」という評価であるが、厳しい意見もいただいている。本事業の総括としてまとめておいていただきたい。

(2) 「第5次香芝市総合計画」及び「香芝市まち・ひと・しごと創生総合戦略」進捗確認

<意見及び質疑>

◎全体について

- ：今年度(R3年度)の目標値と総合計画に記載されている4年後(R6年度)の目標値が同等であるケースが見受けられるが、これは計画の見直すということか。

→(事務局) 計画策定時において「社会情勢や環境の変化への柔軟な対応のため、計画期間の途中においても必要な場合には本計画を修正することも検討されたい。」と答申いただいていることもあり、必要に応じて見直すことを前提としている。ただし、今年度は計画の初年度であり、もう少し様子を見て、見直し時期については今後検討していきたい。

- ：逆に、コロナ禍の影響が長く続き、達成が見込めないような場合も同様に見直すのか。

→(事務局) 同様に見直す。

◎政策1・政策2について

- ：施策10「障がい者福祉の充実」の指標「手話奉仕員の養成人数」について、お年寄りで聴力の弱った方の場合、手話の読み取りは難しいという事情もあると思われるので、要約筆記という支援も必要と考えられるが、そういった施策はあるのか。

→(事務局) 手話通訳者又は要約筆記者を意思疎通支援者として登録し、必要とされる場所へ派遣するといった取り組みを行っている。指標でいうと、「意思疎通支援事業の登録者数」がそれにあたる。

- ：施策4「学校教育の充実」について、教育施策の推進は市長の権限でなく、教育委員会が責任をもって行うことであり、市長部局が策定している総合計画にこのように具体的施策として記載するのはいかがなものか。今後見直す機会があれば検討いただきたい。

施策3「就学前教育・保育の充実」の主な取り組み②就学前教育・保育環境の整備について、

先日、全ての保育所を視察したところ、劣悪な環境の施設が多いと感じた。受益者負担の観点からも、早急に予算措置を行い、施設間の格差の是正に取り組まなければ、目標が絵にかいた餅になりかねない。それにより指標の目標値設定も変わってくるので、よろしく願いたい。

- ：施策7「医療提供体制の充実」において、今年度の事業実施計画として「コロナワクチン接種を迅速に実施する」とあるが、指標「高齢者インフルエンザ予防接種の接種率」の目標値達成とは直接的には関係しないと思うのだが。

これに新型コロナウイルスワクチン接種は含まれないのか。

→(事務局) 指標は、必ず一つ一つの事業に対して設定している訳ではなく、施策の主な取り組みの達成状況を総合的に図るものとして主なものを設定している。ここでは「感染症対策の推進」を図る指標の一つとして「高齢者インフルエンザ予防接種の接種率」を設定している。

◎政策3・政策4・政策5について

- ：施策18「農業の振興」の①主な取り組みの方針内容に「耕作放棄地の増加を防ぐとともに」という記載がある。耕作放棄地が飛び地状態であっても利用価値が薄くなるので、集約化という考えが非常に重要となってくる。奈良県の間管理機構も土地の買い取り、集約化等に取り組むといっているため、香芝市においても全体を見て具体策を検討するようお願いしたい。

次に地産地消推進事業についても徹底していただきたい。名目上「やっている」だけにならないよう、明確な目標や数値目標をしっかりと決めて、具体的に進めていくことが重要である。

施策22「交通安全対策の強化」での免許返納に関して、返納率向上のための1つの施策として、デマンド交通の施策を掲げているはずだが、計画の中にデマンド交通との関連性が記載されていない。どのように返納者数を増やすか、ということが施策の目標にならないといけないと思うので、検討をお願いします。

- ：施策18「農業の振興」について、農業委員会では香芝産酒米100%の酒造りに向けて、今年度はJA 奈良県の奨励品種「露葉風」を試験的に苗付けし、育成している。香芝の環境に適合し、うまく収穫できるかどうか、目標値の達成に影響すると考えている。

次に「地産地消推進事業」に関して、学校給食での地元農作物の活用については、農家と教委員会が前向きに協議していくことで、さらに利用を拡大することができる。地元農作物の提供機会を増やすことが、荒廃農地の増加を防ぎ、美田を後継者に引き継ぐことにつながるため、具体的に進めていただきたい。

- ：施策14「文化芸術の振興・多文化共生」や施策15「生涯学習とスポーツ活動の充実」について、施設の管理・運営方法のあり方も考える中で、今後、指定管理者による自主事業の実施内容等にも変化が現れ、施設の取り組み自体が大きく変わってくる可能性がある。そのためにも、

単に施設の利用率や利用者数ではなく、新規の施設利用者や文化・芸術活動の享受者層の広がり等を目標としていくべきだろう。

- :文化・芸術関係は人気があればよいという時代から、ソーシャル・インクルード(社会包摂)という観点を重視されるようになってきている。

社会教育施設においては、施設の利用者数や利用率の向上だけを目標とするのではなく、「どれほど多様な人々(障がい者、外国人、低所得者、一人暮らしの人、高齢者、就学前の親子、時間のない多忙な人等も含め)が文化・芸術活動に参画できているか」が重要と考えられるため、それらを測ることができる指標も追っていくべきと考える。

そうして、生涯学習施策も、市民同士が学び合い、教え合える、本来の社会学習のあり方をめざしてほしい。その上での利用者数、利用率の達成であると思う。

図書館についても、蔵書の回転率を上げるだけが目標であれば、賞を取った本やCDを並べればよいが、しっかりとした選書基準を持ち、市民にとっての研究所、研究支援所としての役割をきちんと担っていただきたい。その上での蔵書回転率の達成である。

◎政策6・政策7について

- :施策27「道路整備の充実」について、道路の老朽化が進んでおり、補修をしていかなければならないが、道路整備を行うためにはまず総合計画の枝葉となるような個別計画が必要であると考え。また、予算システムにも問題があるように思うので、その点も併せて見直しを行っていただきたい。

12月頃には議会に道路整備の計画が提出される予定であるが、内容によっては現状の目標値が大幅に変わる可能性があるので、総合計画との整合性に留意いただきたい。

- :施策29「下水道の整備」について、香芝市は目的税などを導入していなかったこともあり、他市町村に比べ整備が遅れている。このままでは何も進まないのではないかと懸念している。賛否はあるが、目的税の導入を検討してもよいのでは。

- : 施策31「歳入確保と財源の創出」について、香芝市の経常収支比率は県内12市を比較しても低い水準となっており、今まで財政再建を行ってきた結果であると評価できる。

しかし最近では、歳入の確保がないのに、過去から積み上げてきた基金を安易に取り崩していると感じる。昨年、国民健康保険特別会計の基金が取り崩されたが、本当に取り崩す必要があったか等について検証することも必要。基金を取り崩した結果、将来的に保険料の値上げ等になれば、住みよい街である香芝市の根幹に関わってくる。こういった点も話し合われる材料として考えていただきたい。

また、指標として収納率が設定されているが、これまでにかなり改善されており、現状では数値に大きな変動がない。歳入の確保をどのように行っていくかを検討し、指標設定すべきと考えるので検討いただきたい。

- :施策23「ごみ減量と資源化の推進」について、ごみの有料化が謳われていないが、香芝市では検討されているのか。ごみを減らすためには有料化が有効な手段と考えるので検討いただき、計画にも示してはいかがか。

→(事務局)まだ方針を示せる段階にはないので、施策にも記載していない状況。

- :施策30「行財政運営の最適化」の②財政運営の健全化の指標について、奈良県内の自治体は経常収支比率が全国的に見ても悪い状況であり、香芝市においてもそれを自覚して運営いただきたい。実質公債費比率は「県内市町村平均値を目指す」ではなく「上回る」、財政調整基金は増やしていく努力をすべきであり、危機感をもって数字を追ってください。

- :以上で、全体に対する意見は終わります。今回出た意見は各担当所管にフィードバックしてください。

その他について

- ・令和2年度「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」活用事業の実績および効果検証について報告
- ・その他連絡事項を伝達

以上